葛西奈津子の連載スポーツ・エッセイ ⑪

# アロハ！トライアスロン！

## だれが勝者か？

こんにちは。

今は、学年末テストや3年生には高校入試など、みんなにとって勝負の季節だね。今月のアロハ！トライアスロンも勝負についての話だよ。

トライアスロンというスポーツが生まれたのは今から25年前、ハワイでのこと（写真コラム参照）。15人が挑戦し、12人が完走した。次の年には女性も参加するようになり、選手数もどんどん増えていった。トライアスロンの大きな魅力は、性別、年齢にかかわらず、全員が同じ距離、同じコースをいっせいにスタートすること。車椅子の選手だって同じってことは前に書いたよね。今では世界中でアイアンマン・レースが行われていて、ハワイのレースは、それぞれの大会で年代別、男女別に上位に入った人が選ばれて出る世界選手権になっているよ。

さてハワイ・アイアンマンの歴史上、最も優勝回数が多い女性は南アフリカから来たポーラ・ニュービー・フレイジャー。8回も優勝したけれど、最も印象深いレースは7回目と8回目の優勝の間の年、1995年のレースだった。

例年通り、女子トップを走っていたポーラは、ランの途中でひどい脱水症になり、ゴールまで

## トライアスロン こぼれ話

いったいだれがトライアスロンなんて最初に考えたか興味ない？
1978年、ハワイ。「いろいろなスポーツの中で、どれがいちばんスゴイか」という話が持ち上がり、ジョン・コリンズ（写真）という人が、「ハワイにはワイキキ遠泳大会、オアフ島一周自転車レース、ホノルルマラソンがある。この3つを続けてやって、最初にゴールした人をアイアンマン（鉄人）と呼ぼう」と提案した。これが最初のお話。初代アイアンマンはゴードン・ハラー選手で、タイム11時間46分58秒。
それから20年。1998年の男子チャンピオン、ピーター・リード選手のタイムは8時間24分20秒、女子チャンピオン、ナターシャ・バッドマン選手は9時間24分16秒。このとき、アイアンマンの生みの親ジョン・コリンズ（上写真）も、そして初代チャンピオン、ゴードン・ハラーも出場し、完走した。ゴードンのタイムは14時間27分01秒。20年前より2時間半も長く楽しんだね！

常に目標を忘れないことが必要だよ！

残り数百メートルというところで歩くことさえできなくなってしまった。ゴールで応援している観客の声援を聞きながら、何度も走りだそうとしたけれど、立っているだけで精いっぱい。とうとう、コース上に倒れてしまった。治療を受けたり、だれかの手を借りて立ち上がったりすれば、レースに失格してしまう。ポーラはサポートの手を払いのけた。とうとう、2番の選手が追いついて、ポーラに声をかけて励ましながら抜き去り、ゴールしてしまった。

倒れてから20分がたった。ポーラはどうしたと思う？

**「わたしはポーラよ。これはわたしのアイアンマン・レースよ」**

そう自分に言い聞かせて立ち上がり、シューズを脱いで一歩、一歩、歩き出した。また一人、女子選手がポーラの肩をぽんとたたいて抜いて行った。ゆっくりとゴールまでの道を踏みしめて、最後は大きく頭の上で自分に拍手を送りながら、とうとうゴールにたどり着いたポーラは、家族に抱きとめられて初めて大きな声で泣いたんだ。

トライアスロンでは、だれでも自分に挑戦し、完走することによってアイアンマンになれる。

でも、完走するためには**その日だけ頑張ってもできるわけじゃない**。毎日トレーニングをし、風邪をひかないように気をつけ、バランスのよい食事をとり、けがをしたり忙しくてトレーニングができないときにもアイアンマンになるという**目標を忘れないことが必要**。だから、ひとつのレースを完走すれば終わりでもないし、表彰式で表彰された人だけがアイアンマンでもない。フィニッシュラインにたどり着いた人はもちろん、スタートラインに立ったとき、その人はもうアイアンマンと呼べるかもしれない。そして何かの理由でスタートラインに立てなかった人の中にもアイアンマンがいるはず。

毎年、ハワイ・アイアンマンレースは、10月の満月にいちばん近い土曜日に行われる。コナ・ウインドという台風のような暴風が吹き荒れて、選手たちの行く手を容赦なく阻もうとするけど、夜になれば月の光が足もとを明るく照らしてくれる。選手はみんな、この日までの努力を思いながら、アイアンマンになるためゴールまでひた走る。

●デザイン/CrazyCompany　●イラスト/Kei